

## 「水の大切さ」

奈良県立青翔中学校 一年

植田 沙弥加

私は、小学四年生の社会科見学で浄水場に行くまでは、水がどれほど大切なのかを考え、た事がありませんでした。なので、石けんで手を洗っている間や顔を洗う時、歯みがきをしている時など、水を出したままにしている事もありました。このことから私は、きれいな水を簡単に手に入ると思っていたので浄水場での工夫を知りませんでした。

浄水場で、説明してくれた人が、「水がみんなの家に届くまでを教えます。海にたまった水に太陽の日光が当たり、水が小さくなった水蒸気として雲にいき、雨が降ることです。水がたまって、その水を私達の住んでいる場所の一番近いため池に水を貯めて、ため池から浄水場に行く仕組みになっています。ただよ。でも水は、そのまま飲むことができます。なので、浄水場と言うし設で大量の水

をどんどんきれいにして、みんなの使う水道まで届きます。」と聞いて、私が今まで思っていた考えとは違う事を知りました。

質問コーナーで、「海や川には、魚が泳いでいるけれども、ため池には、魚はいないんですか？」と、私が聞きました。すると、説明してくれた人が、

「ため池には、魚も少しいるけれども、微生物という小さな生き物がいて、その生き物が不要物を食べて、水をきれいにする役目を果たしているのですよ。」と、答えてくれました。

その後、学校で水がポタポタと落ちているのを見たら、蛇口を閉めることもしました。少しの水も無駄にしては、いけないと思います。

した。  
微生物の単元を習っている時に、浄水場で教えてもらった微生物の事が出てきたので、もつと知りたい、調べてくわしくなりたいたいと思って、けんび鏡を使っての単元が楽しくなりました。初めてけんび鏡を使ってみて、一番難しかった行程は、プレパラートをクリップステージにはさむことでした。なぜかと言うと、プレパラートはとてもうすいたため割れやすく、しん重にあつかわれないといけなからです。他にも、反射鏡の角度によつてずい分明るさが変わり調べている物がよく見えたり、明るさが足りない時にはぼやけて見えたりする事も分かりました。  
実験後に、プレパラートにはさまっている微生物を見せてくれました。思っていたよりも、ものすごく小さすぎて驚きました。ため池に微生物がいる場合を想像してみると、一しゅん見るだけでは見つけれないほど小さな生物だと分かりました。微生物は、黄緑色の物もありました。例えば、ミドリムシやアオミドロが緑色をしています。三日月の形やゾウリの形、ミシンでぬったような形もあり

ました。さらに、小さな丸がたくさんくっついて形ができているみたいだなと思いました。私達の生活に欠かせない大切な水は、浄水場で数多くの行程が行われて家庭や学校へと送られてきます。家庭では、お風呂、洗たく、台所と水を沢山使う場所があります。少しでも水を無駄に使わないため、洗い物をする前には、よごれを少しふき取ったりする事が心がけています。そして、揚げ物に使った油もはい水口に流さず、ペーパーなどに染み込ませて捨てるなど、身近な事から、これからも続けていきたいです。また、川や海にゴミを捨てないようにして、自然環境をたもてるようにみんなも守っていかねばならないと思います。